

第 10 回一関市総合教育会議

日 時 令和元年 11 月 19 日（火）10 時 00 分～11 時 30 分
場 所 東山市民センター 大会議室

次 第

1 開会

2 挨拶

3 懇談

不登校者数の増加について 資料No. 1

4 閉会

一関市教育に関する大綱

【基本目標】

学びを広げ、人と地域が共に育ち、一関の未来を創る

【基本方針】

- 1 生涯にわたる学びを応援し、まちづくりを担い、活躍する人づくりを進める
(縦軸の人づくり)
- 2 学校・家庭・地域の連携を深め、心豊かにたくましく生きる人づくりを進める
(横軸の人づくり)
- 3 郷土の歴史と文化を誇りにし、未来を創造する人づくりを進める
(時間軸の人づくり)

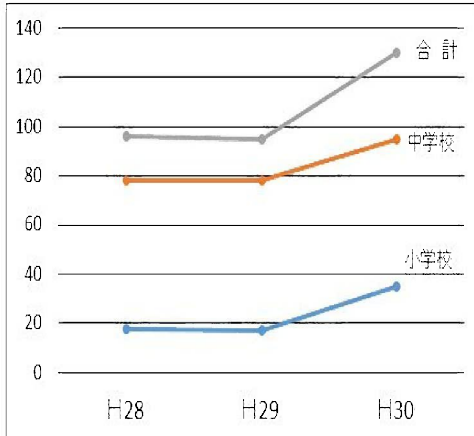
第10回一関市総合教育会議 出席者名簿

職		氏 名	備 考
【構成員】			
市長		勝部 修	
教育委員会	教育長	小菅 正晴	
	委員	千葉 和夫	
	委員	佐藤 一伯	
	委員	伊藤 一志	
	委員	桂島 加奈子	
【事務局等】			
市長公室	市長公室長	石川 隆明	
	市長公室次長 兼政策企画課長	佐藤 正幸	
	政策企画課 政策推進係長	鈴木 敏宏	
	政策企画課 主事	佐藤 真央	
まちづくり推進部	いきがづくり課長	伊東 吉光	
保健福祉部	保健福祉部長	佐藤 鉄也	
	保健福祉部次長 兼子育て支援課長	黒井 直子	
	福祉課長	小野寺 一宏	
教育部	教育部長	千葉 敏紀	
	一関図書館長	千葉 秀一	
	教育部次長 兼学校教育課長	瀧野澤 徹	
	教育部次長 兼文化財課長 兼骨寺荘園室長	千葉 浩	
	一関市博物館次長	千葉 精一	
	教育総務課長補佐 兼庶務係長	千葉 由紀	

不登校の現状

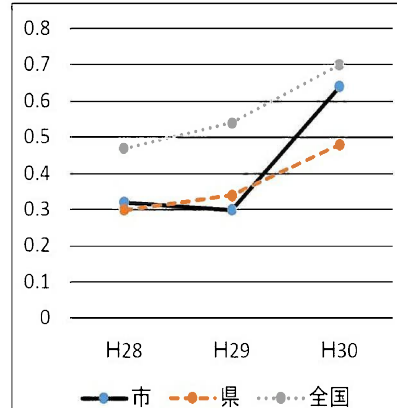
【不登校児童生徒数の推移（一関市）】

	H28	H29	H30
小学校	18	17	35
中学校	78	78	95
合 計	96	95	130



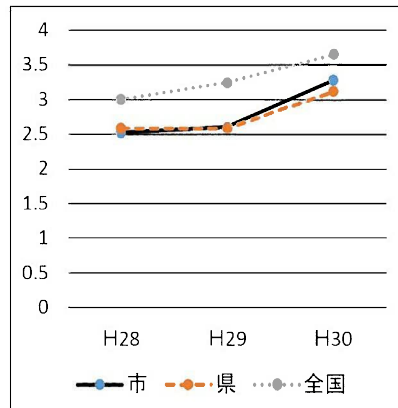
【出現率の推移（小学校）】

	H28	H29	H30
市	0.31	0.30	0.64
県	0.30	0.34	0.48
全国	0.47	0.54	0.70



【出現率の推移（中学校）】

	H28	H29	H30
市	2.56	2.61	3.28
県	2.59	2.59	3.12
全国	3.01	3.25	3.65



「問題行動等調査」より

別室登校児童生徒数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
小学校	1	0	1	3	3	4	12
中学校	5	5	16				26

H30「市不登校調査」より
(年間30日以上)

「別室登校」……登校した際、所属する学級の教室ではなく、保健室や相談室などで過ごすこと。学校では、教室に入らなくても「出席」として記録している。文部科学省では「今後の不登校への対応の在り方について」（2003年）において、「特に効果のあった学校の措置」として、別室登校させて指導することを挙げている。

きっかけ・原因

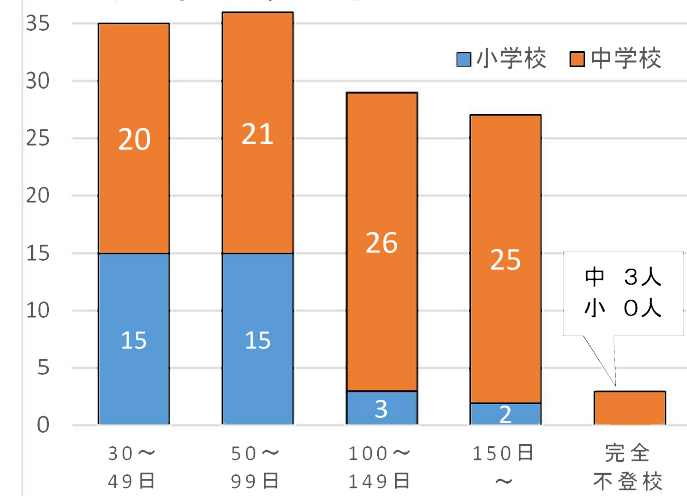
きっかけ・原因	小学校	中学校	計
いじめ	0	2	2
いじめを除く友人関係をめぐる問題・けんか等	5	12	17
教職員との関係をめぐる問題	0	1	1
学業の不振	0	5	5
進路に係る不安	0	4	4
家庭の生活環境の急激な変化	0	3	3
親子関係をめぐる問題	0	2	2
家庭内の不和	0	0	0
病気による欠席	6	9	15
あそび・非行	0	1	1
無気力	5	18	23
不安など情緒的混乱	9	23	32
意図的な拒否	0	2	2
クラブ活動・部活動	0	0	0
入学・進級等の不適応	1	1	2
その他	7	15	22
計	33	98	131

不登校の
きっかけ・原因

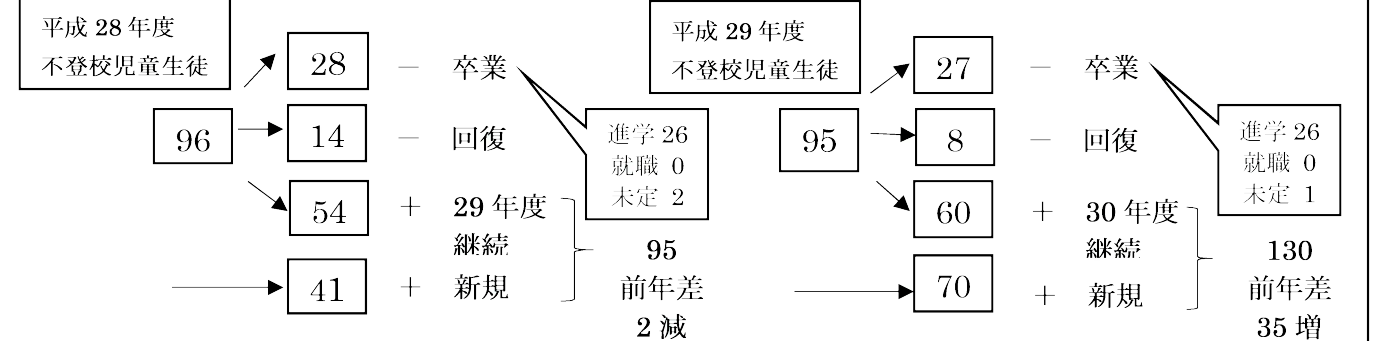
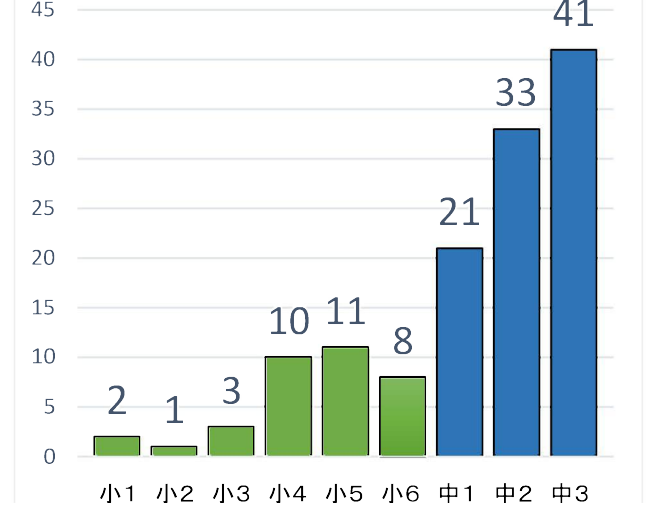
平成30年度一関市教育研究所「豊かな心を育む教育相談事業報告」より

※平成31年度2月までの報告をまとめたもの。複数回答等もあるため、問題行動等調査とは不登校児童生徒数に違いがあります。

欠席日数の状況（平成30年度）



学年ごとの不登校児童生徒数（平成30年度）



不登校の減少に向けた取組

未然防止

- 「絆づくり」と「居場所づくり」
 - ・自己存在感や充実感を感じられる場所づくり
 - ・自己有用感を感じとれる場や機会づくり
- 不登校の「治療的予防」
 - ・前年度までの欠席状況の把握（累積30日以上）
 - 当該児童生徒が2～3日連続して欠席した際は速やかに個別に対応
 - ・課題のある児童生徒に対する教育相談
- 不登校の特徴を捉えた指導
 - ・大きな行事、大会後、長期休業明けに増加傾向
 - 充実感をもたせる取組・指導、休業中の定期連絡 等

命の教育と自殺の予防

- ・自尊感情を育み、命の大切さを実感させる取組
- ・長期休業期間中の意図的な対応
- ・学校内外における見守り活動
- ・SOSの出し方に関する指導



新規不登校・不適応児童生徒の発生を抑制

早期対応

- 「3日間で、まず行動！」
 - ・面談やアンケートで「言動」「身体」のサインに注目
- 不登校児童生徒への支援
 - ・保護者との関係づくり
 - ・適応支援教室（TANPOPO広場）等の活用
- 関係機関との連携
 - ・中学校区 福祉 医療機関 警察 児童相談所 等
 - ・スクールソーシャルワーカー5校配置（県事業）

【市及び研究所事業】

教育相談員による学校訪問

- ・学校不適応の解決に向けた訪問相談
- 適応支援教室（TANPOPO広場）**（山日市民センター内、千厩支所内）
- ・学校適応教育相談 ・自然体験活動
- 適応支援相談員の配置**
- ・2019年度 6校配置

